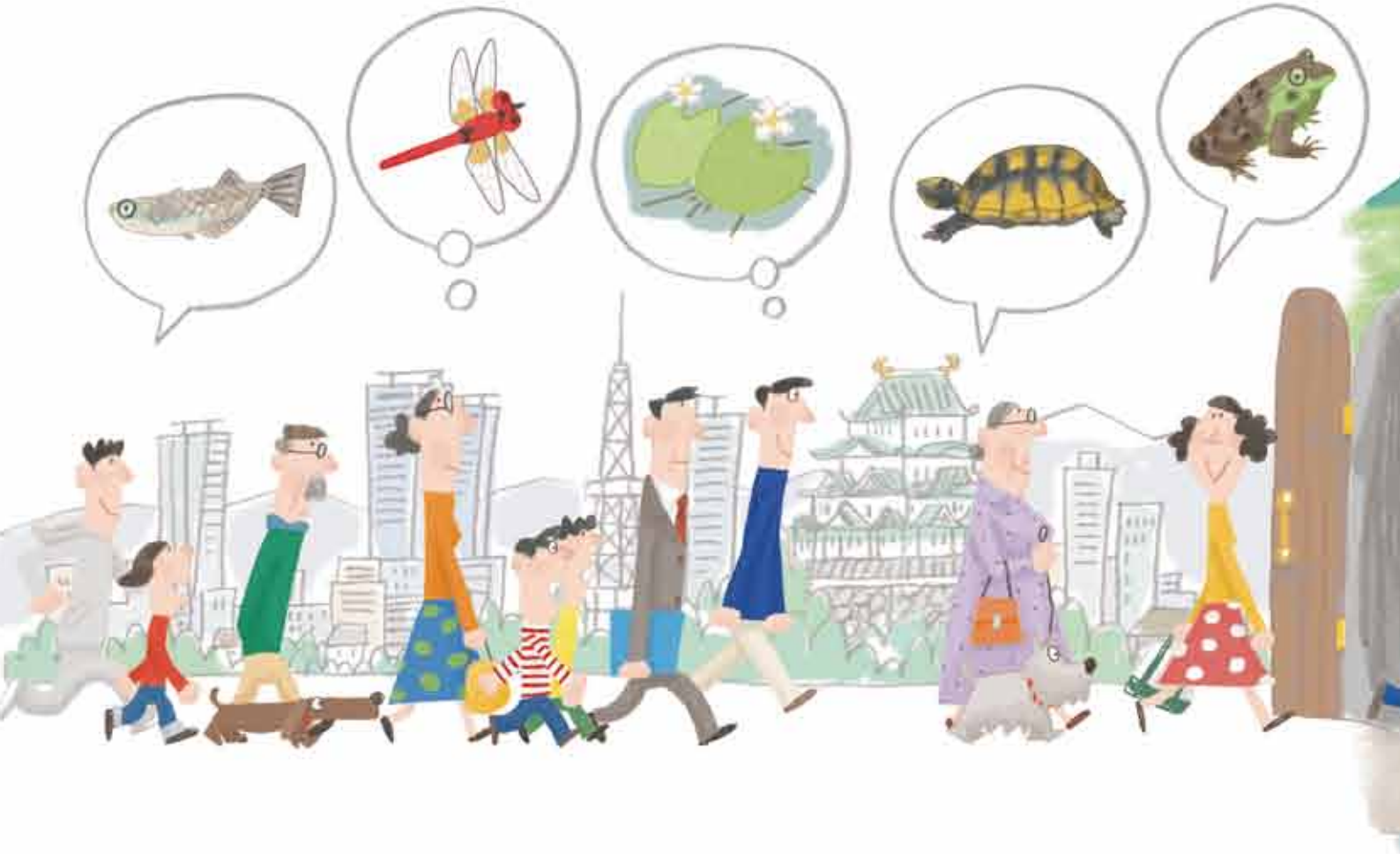
名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブックなごや 2015

概要版

ご存じですか？　絶滅のおそれのある**生きもの**たちが、名古屋市にもいるのです



なごや生物多様性センター

名古屋市に絶滅危惧種がいるの？

名古屋にはもともと様々な生きものがいました。今も、東部の丘陵地域や河川敷、大規模な緑地などを中心に、様々な生きものがいますが、生息・生育できる場所は限られているのが現状です。

都市化が進む中、残された少ない自然の中で子孫を残すことが難しくなった生きものがいます。そういった生きもののことを、「絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）」と言っています。名古屋でも、残された自然の中で危機的な状況にある生きものがたくさんいます。

「レッドデータブック」ってなんだろう？

名古屋市では平成27年4月に「レッドデータブックなごや2015」を公表しました。このレッドデータブックとは、絶滅のおそれのある野生生物をリストアップして、1種ごとに生息・生育状況や特徴などを解説し、まとめたものです。

実は、このレッドデータブックは、名古屋市以外にも、国（環境省）で作られている他、都道府県や市町村などでも作られています。このように様々なところで作られているのはなぜだと思いますか?

それは、生きものの生息・生育状況が、それぞれの地域で異なるためです。例えば、日本全体を見渡して作られた国のレッドデータブックでは、まだ大丈夫とされた生きものでも、名古屋市だけで見ると、危機的な状況にある場合もあるのです。

「レッドデータブック」に掲載された種の数は？

名古屋市には、どれくらい**絶滅のおそれのある種**がいるのでしょうか。

答えは、**389種**です。2010年に公表された「レッドデータブックなごや2010−2004年版補遺」と比べると、44種も増えています。

また、レッドデータブックでは、絶滅の危機に瀕（ひん）している度合いによって、カテゴリー（ランク）分けされています。

「レッドデータブックなごや」掲載種数の推移

2015年は合計389種

表の上にいくほど、**絶滅のおそれ**が高まる

カテゴリー（ランク）		植物		動物	
		2010年	2015年	2010年	2015年
絶滅（EX）		75種	**76種**	21種	**25種**
絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）	絶滅危惧IA類（CR）	27種	**49種**	64種	**75種**
	絶滅危惧IB類（EN）	49種	**58種**	46種	**57種**
	絶滅危惧II類（VU）	91種	**75種**	68種	**75種**
準絶滅危惧（NT）		40種	**53種**	96種	**124種**
情報不足（DD）		―	**0種**	24種	**40種**

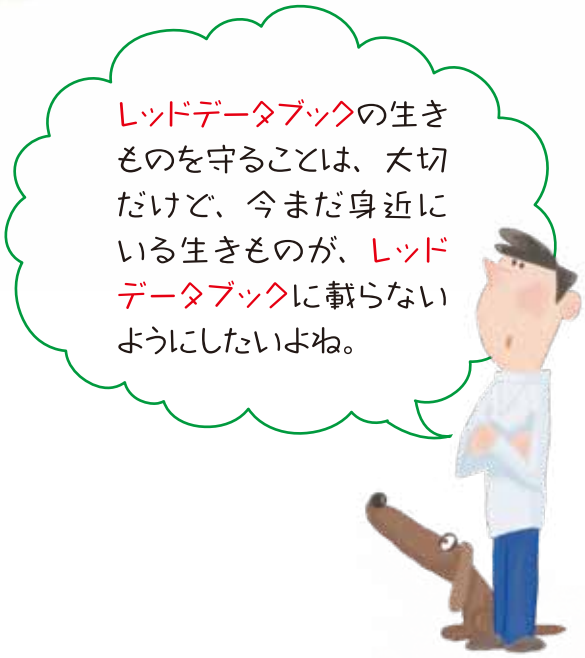
「レッドデータブック」は何のために必要なの？

地球上では、今、野生生物がかつてないスピードで絶滅しています。

レッドデータブックは、このような絶滅のおそれのある野生生物の状況を把握するために作られます。そして、どの場所のどんな生きものを保全しなければいけないのか、といったことを考えるためにも役立てられます。

名古屋市では、2004年、2010年(*)にもレッドデータブックを作っており、絶滅の危機に瀕（ひん）している生きものの過去と現在の状況を見比べることができます。

(*) 2010年は2004年版補遺



名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物（一部紹介）

維管束植物

シデコブシ

2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生育地: 東谷山等

丘陵地の湧水湿地等に生育。葉が出る前の3～4月に、淡紅色か紅色をおびた白色の花をつける。

提供: Nature-Clips

カタクリ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生育地: 守山区

山地や丘陵地の落葉広葉樹林内に生育。3月末～4月に斜め下向きの紅紫色の花をつける。

撮影: 芹沢俊介

オニバス

2010 絶滅 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生育地: 名古屋城外堀

1992年の記録を最後に絶滅とされていたが、2012年の市民からの情報で生育が確認された。

コケ植物

※コケ植物は2010年版では調査対象外

撮影: 成田 務

オオミズゴケ

— ▶ 2015 準絶滅危惧

生育地: 東谷山等

湧水によってできた湿地やため池の水辺に大きな群落を形成。ミズゴケの中では大型の種。

撮影: 成田 務

イチョウウキゴケ

— ▶ 2015 準絶滅危惧

生育地:守山・名東・天白区等の水田地帯

形がイチョウの葉に似ている。水田等の水面に浮游する型と、泥土や湿土上に生える型がある。

哺乳類

撮影: 名和 明

ムササビ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 東谷山

大木の洞などを巣穴に利用し、ほとんど樹上で生活する。前後肢間にある飛膜で滑空できる。

撮影: 野呂達哉

アカギツネ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 守山・名東・天白・緑・北・中川区

市北東部が分布の中心であったが、東部の孤立した緑地や西部で最近確認されるようになった。

（哺乳類）

撮影: なごや市民生きもの調査員

ニホンテン

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 東谷山

地上だけではなく樹上を利用して、俊敏に移動する。体色は黄色から褐色まで個体差が大きい。

撮影: 小島盛夫

ニホンアナグマ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 緑区

地中にトンネルを掘り、血縁の家族群で生活する。2013年、市内では31年ぶりに確認された。

撮影: 野呂達哉

オヒキコウモリ

2010 選定外 ▶ 2015 情報不足

生息地: 丸の内、名古屋城、東谷山

開けた空間を高速で飛翔してガ類などを捕える。尾が長いのが特徴。2011年丸の内で初確認。

鳥類

撮影: 後藤弘行

コノハズク

2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

飛来地: 大高緑地、相生山等

日本産では最小のフクロウ類。大人の握りこぶしくらいの大きさ。食物はほとんどが昆虫。

撮影: 矢田和子

フクロウ

2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 東谷山

頭が大きく、フクロウ類独特の平たい顔盤がある。ネズミ等の小哺乳類のほか鳥類も捕食する。

撮影: 矢田和子

ヒクイナ

2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 市東部のため池

淡水性の湿地に生息し、6～7月頃草むら等に草の茎で巣を作り繁殖する。生息地の減少が著しい。

撮影: 森井豊久

コアジサシ

2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

飛来地: 海沿いの南部地域等

5～7月頃水辺に近い砂礫地で集団繁殖する。人等の外敵が巣に近づくと、集団で威嚇攻撃する。

*「レッドデータブックなごや 2015」には、707 種が掲載されています。

（鳥類）

撮影: 森井豊久

ハヤブサ
2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

飛来地: 藤前干潟周辺等
飛んでいる鳥を空中で体当たりして蹴り落とし、捕食する。本市へは、冬鳥として渡来。

撮影: 森井豊久

ミサゴ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 準絶滅危惧

飛来地: 熱田区をのぞく全区
生きた魚を狩る。水面上で停空飛翔してねらいを定め、急降下して中・大型の魚をつかみ取る。

撮影: 近藤 孝

オオタカ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 準絶滅危惧

飛来地: 市のほぼ全域
森林と農耕地とが混在する里山に生息し、中・小型の鳥やヘビ、リス等を捕食する。

は虫類

撮影: 矢部 隆

ニホンイシガメ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 熱田・昭和・千種区等の11区
丘陵地から山地にかけての河川上流部を中心に生息する。同属のクサガメとは生息域が異なる。

撮影: 矢部 隆

ヤマカガシ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 守山・名東・千種区
平地や丘陵地の水田や小川、湿地等に生息する。水に入ってオタマジャクシや魚を食べる。

撮影: 矢部 隆

ニホンスッポン
2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 情報不足

生息地: 熱田・北・昭和区等の12区
低地から丘陵地にかけての池沼、河川では下～中流域の流れが緩やかな水系に生息する。

撮影: 矢部 隆

ニホンマムシ
2010 選定外 ▶ 2015 情報不足

生息地: 守山区
2012年市内で初確認され、市内の生息実態は分かっていない。森林やその周辺の田畑に生息。

両生類

撮影: 藤谷武史

カスミサンショウウオ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 東部の丘陵地帯
平野部の丘陵地に生息。水たまりや小さな池の淵、浅い緩やかな流れの流水域等に産卵する。

撮影: 藤谷武史

アカハライモリ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 東部の丘陵地
池や湿地、水田等の水中で多く見られる。腹部は赤かオレンジの斑紋や不規則な模様がある。

撮影: 藤谷武史

ナゴヤダルマガエル
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 南西部の水田地帯、北部の一部
トノサマガエルと似るが、背中線を持たない個体が多いことや後肢がやや短いこと等が特徴。

撮影: 藤谷武史

アズマヒキガエル
2010 選定外 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 東部の丘陵地
池や溝、水田等の止水で紐状の卵塊（1,500～8,000個）を産む。近年、市内各地での産卵数が激減。

撮影: 藤谷武史

トノサマガエル
2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 東部・西部・北部の水田や緑地
水田脇の畦や土手等で生活し、水田を産卵場所とする。雄と雌とでは色彩や模様が異なる。

魚類

撮影: 鳥居亮一

カワバタモロコ
2010 選定外 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 生息地保護のため非公表
平野部の浅い池沼、水路等に生息し、群れを作って遊泳する。市内の生息地は極めて局所的。

撮影: 鳥居亮一

トウカイコガタスジシマドジョウ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 庄内川水系等
流れの緩やかな砂泥底の農業水路等に生息。水路のコンクリート化等で分布域は著しく縮小。

（魚類）

撮影: 鳥居亮一

ドンコ

2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 庄内川水系

小中河川の流れの緩やかな砂礫底に生息。ハゼ類の中では大型。頭が大きく胴が短い。

撮影: 古橋 芽

トウカイヨシノボリ

2010 選定外 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 生息地保護のため非公表

丘陵地のため池に生息。分布は濃尾平野から岡崎平野で、東海地方の里山環境を特徴づける種。

撮影: 鳥居亮一

ニホンウナギ

2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 庄内川水系、天白川水系等

河川工事によって、餌となる小魚やエビ類、隠れ場となる土砂や石の隙間等が減っている。

撮影: 荒尾一樹

トビハゼ

2010 選定外 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 庄内川河口、藤前干潟

河口域の泥底が発達した干潟に生息。雄は泥中に産卵巣をつくり、求愛ジャンプで雌を呼ぶ。

撮影: 鳥居亮一

ミナミメダカ

2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 市内のほぼ全水系、ため池等

産卵に使う水草が水田の減少や圃場整備等によって消失したことも、生息数減少の要因のひとつ。

昆虫類

ゲンゴロウ

2010 絶滅 ▶ 2015 絶滅

生息地: 生息情報なし（40年以上）

池、沼の埋め立てや護岸整備による生息地の消失や、農薬、生活汚水等による水質悪化が絶滅要因。

撮影: 戸田尚樹

オオクワガタ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 守山区、昭和区、千種区

日本最大のクワガタムシ。生息場所となる平野部の河畔林や低山地の雑木林等の大木は減少傾向。

（昆虫類）

ヨツボシカミキリ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 生息情報なし（20年以上）

薪が重要な繁殖場所のひとつ。化石燃料への移行が、個体数減少の要因の一つと考えられている。

撮影: 田中多喜彦

ウラナミジャノメ

2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 守山区竜泉寺等

湿原やその周辺の低木が生える疎林に生息。農薬散布等の影響も受け、著しく減少している。

撮影: 岡田正哉

クツワムシ

2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 瑞穂区、中区

夜間「ガチャガチャ‥」と大きな声で鳴く。林の周囲や河川敷等のクズが繁茂する草地に生息。

撮影: 矢崎充彦

オオアメンボ

2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 守山区、熱田区

本州のアメンボ類の中では最大。樹林に囲まれた比較的水深の深い大きなため池等に生息。

撮影: 髙﨑保郎

ベニイトトンボ

2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 千種・中・熱田区等の8区

体が太く、イトトンボとしては大型。浮葉植物と適度な密度の抽水植物がある池沼に生息。

撮影: 矢崎充彦

ヒメタイコウチ

2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 市内東部

東海地方の湿地を代表する種。常に湿り気のある湿地帯に生息。後翅が退化し飛翔できない。

採集: 戸田尚希

ミズスマシ

2010 選定外 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地:天白区、庄内川、東山公園

市内ではほぼ見ることができない。ある程度水深のあるため池の開放水面域に生息。

（昆虫類）

撮影: 田中多喜彦

オナガミズアオ
2010 選定外 ▶ 2015 準絶滅危惧

生息地: 志段味、平和公園等
幼虫がハンノキを食べて成長することから、ハンノキ林のある雑木林に生息する。

クモ類

撮影: 緒方清人

カコウコモリグモ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 港区
海岸や河口付近の塩性アシ原にのみ生息。護岸工事でアシ原が減少し、個体数も激減している。

撮影: 柴田良成

アカイロトリノフンダマシ
2010 絶滅危惧II類 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地:守山区、名東区、千種区
日中はススキ草原等で葉の裏に静止している。活動は夕方からで、網を張ってガ類を捕獲する。

撮影: 柴田良成

コガネグモ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 準絶滅危惧

生息地: 守山・中村・港区等の5区
水田、河原等の日当たりのよい樹間に円網を張る。全国的に普通に見られるが、市内では減少傾向。

カニ類

撮影: 天野 勲

ハクセンシオマネキ
2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 生息情報なし（2013年以降）
庄内川河口では、河川から運ばれる砂土量が減少し、生息場所である砂泥底干潟が消失。

撮影:天野 勲

モクズガニ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 準絶滅危惧

生息地: 庄内川の上流・支流等
稚ガニから親ガニになると川を遡上し、再び、産卵のために海（河口）に下る回遊性のカニ。

貝類

撮影:市原 俊

イボキサゴ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 生きた個体の採集なし
砂泥干潟にごく普通に見られたが、護岸工事や埋め立て等により個体数は著しく減少した。

（貝類）

撮影: 市原 俊

マルタニシ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 中川区
10～20年ほど市内での確認がなかった。2013年に再発見されたが個体数は極めて少ない。

撮影: 市原 俊

ハマグリ
2010 絶滅危惧IA類 ▶ 2015 絶滅危惧IA類

生息地: 庄内川河口
絶滅が危惧されていたが、極めて少ない個体数ながら2013年に庄内川河口で生息が確認された。

撮影: 鳥居亮一

モノアラガイ
2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 北区（水田）
平野部の池沼や水田等の水草や礫に付着して生息。生息地の減少に加え、外来種の問題もある。

撮影: 川瀬基弘

ヒルゲンドルフマイマイ
2010 絶滅危惧IB類 ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 熱田神宮、木ヶ崎公園周辺等
熱田神宮が古くから著名な産地。よく茂った二次林内の低木の樹上に生息。

撮影: 川瀬基弘

ヌマガイ
（*）タガイとヌマガイの統合評価

2010 準絶滅危惧（*） ▶ 2015 絶滅危惧IB類

生息地: 竜巻池、大根池、猫ヶ洞池等
河川下流域や平野部の用水路等の流れが緩やかで砂泥底質、かつ比較的水質の良い所に生息。

撮影: 市原 俊

オオタニシ
2010 準絶滅危惧 ▶ 2015 絶滅危惧II類

生息地: 竜巻池、大根池
市内15のため池を調査したが、確認されたのは2つのため池のみ。市内の生息状況は危機的。

撮影: 川瀬基弘

オオケマイマイ
2010 選定外 ▶ 2015 準絶滅危惧

生息地: 名古屋城外堀、護国神社等
市内ではやや自然度の高い雑木林に生息。分布域は狭い。2013年には民家の庭で発見された。

「レッドデータブックなごや2015」についてより詳しく知りたい方へ

「レッドデータブックなごや2015」は
インターネットで閲覧・ダウンロードすることができます。

名古屋市公式ウェブサイト
http://www.city.nagoya.jp/

市民情報センター、名古屋市立図書館、
環境学習センター（エコパルなごや）、なごや生物多様性センターでも
閲覧することができます。

発行: **名古屋市環境局なごや生物多様性センター**
住所: 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
電話: 052-831-8104
FAX: 052-839-1695
E-mail: bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

生物多様性に興味のある方、ぜひ、市民生きもの調査員にご登録を!
生物調査や講習会、イベントなどの実施情報をメールでお届けします。詳しくは協議会ウェブサイトで!
なごや生物多様性保全活動協議会　http://www.bdnagoya.jp/

このパンフレットは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。
発行: 2018年2月